

チャプレンだより

No. 1 / 2014 年 4 月

【発行：関学理工学部宗教主事室】

理工学部宗教主事：前川 裕
©All rights reserved.

2014 年度から、理工学部の教職員の方々向けに「チャプレンだより」をお届けします。関学の基本理念であるキリスト教やその周辺について、ご理解を深めていただくことを願っています。研究室などでのシェアも歓迎です！ 授業期間中に毎月の発行（4～7 月 & 9～1 月）を目指していますが、さてはて…。

イースター、おめでとう！

……ところでイースターってなに？

イースターは日本語で「復活祭」と訳しています。十字架に掛けられて死んだイエスが、三日目に復活したことを記念する日です。クリスマス・ペンテコステとともに、キリスト教にとって最も重要な祭日です。クリスマスが「イエスの誕生日」ならば、イースターは「キリスト教の誕生日」と言ってよいでしょう。

クリスマスは 12/25 と決まっていますが、イースターは「移動祝祭日」として毎年変わります。決め方は大まかには「春分の日の次の満月の後の最初の日曜日」なのですが、細かいルールがあります（ググってください…）。3/22～4/25 の範囲で設定され、2014 年は 4/20 となります。大学の学事暦には必ずしも沿わないこともあって、関学（大学）では毎年「4 月の第 4 水曜日」をイースター記念チャペルの日と決めています（今年は 4/23）。

私自身は、イースターというと「トムとジェリー」に出てきた「イースターおめでとう！」と呼び回るイースター・バニーがいつも頭に浮かぶのでした…（笑）

チャペル・アワー案内

「チャペルは学生のもの」だと思いませんか？チャペルの時間は、一日の初めにあたって心を鎮め、自分を振り返るひとときです（「体のおやつ」ではなく、「心のおやつ」の時間です…）。毎回といわずとも、どうぞチャペルにご出席ください。これはミッション系大学ならではの体験でもあります。多くの学部では、教職員も（数名ですが）随時出席されていると伺っています。

理工学部チャペルの予定は、IV 号館 1 階 EV 前のチャペル掲示板および 4 階チャペル教室前に掲示していますので、興味をお持ちのプログラムがありましたらどうぞ足をお運びください！ この欄ではチャペルの様子をお伝えしていきます。

【聖書のことば】

「愛をもって互いに仕えなさい」

（ガラテヤの信徒への手紙 5 章 13 節より）

これは理工学部の聖句となっている言葉です。関西学院のスクール・モットー “Mastery for Service” の意味をさらに説明しているものとして、理学部創設（1961 年）当時に選ばれました。

文語訳「愛をもって互いに事（つか）えよ」は、関学理学部創設に尽力された古武弥四郎博士（大阪帝国大学名誉教授）の揮毫により、IV 号館 1 階玄関（石版）および 4 階 402 教室東側壁面（書影）に掲げられています。

13 節全体は、「兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせず、愛によって互いに仕えなさい。」となっています。この手紙を書いたパウロは、ガラテヤ教会の信徒に向けて呼びかけています。キリストを信じる信仰によってあなたたちは精神的自由を得た。それは自分のために用いるのではなく、お互いのために用いなさい、と。現代に生きる私たちもまた、自分が学んだことは自分のためだけのものではなく、多くの人たちのために用いることが求められているのだと思います。これはまさに、「マスターリー・フォア・サービス」の理念といえるのではないのでしょうか。

私の CV (その 1)

「宗教主事の方というのは、どうも取っ付きにくくて…」というお話をすればよいのでしょうかねえ」という声を耳にしました。たしかに、理工系の先生方とはかなり畑違いのところからやってきた宗教主事とはいったい何者なのか、と疑問に思われることでしょう。ここでは私自身の来歴・エピソードを書いていきます。話のネタにでもなれば幸いです。

私が生まれたのは 1970 年の 8 月、大阪万博の会期真っただ中でした。ちなみに私には兄がいますが、小さい頃は兄に「お前が生まれたせいで万博を見に行けなかった」と言われていました。日本の理工学史では、国産初の人工衛星「おおすみ」の打ち上げも同年（2 月 11 日）でした。

出生地は三重県の津市。当時住んでいたのは、津駅前（今もある）三重県教育文化会館のそばです。3 歳の頃に、山の方、伊勢自動車道の津 IC の近くに新しく作られた住宅地に引っ越しました。当時は安芸郡安濃村でした。ちなみに「あげぐんあんのうむら」と読みます。「安芸」という地名は別の読み方「あき」で広島と高知にあります。「安濃」も案外読めないようです（「あんのう」とか）。安濃村はいまでも農業が中心の地域です。平成の大合併の際に津市と併合し、今では実家の住所は津市となっています。（続）

ご意見・ご感想など、なんでもお寄せください…

yutaka.maekawa@kwansei.ac.jp ないし本人に直接…